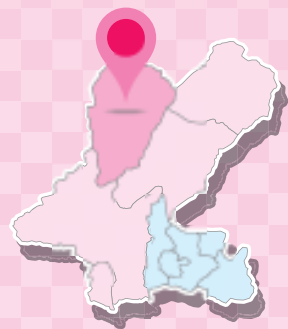




安佐町

# 小河内 おがうち

## 今も残る農村の原風景 地域の郷土愛と絆がつながる



(上)  
三谷地区から見た牛頭山。  
山頂は東西二つの峰からなる。  
左奥に見える東峰を「飯室牛頭」、  
右手前の西峰を「小河内牛頭」と呼ぶ



(右)  
旧小河内小学校から見た滝山

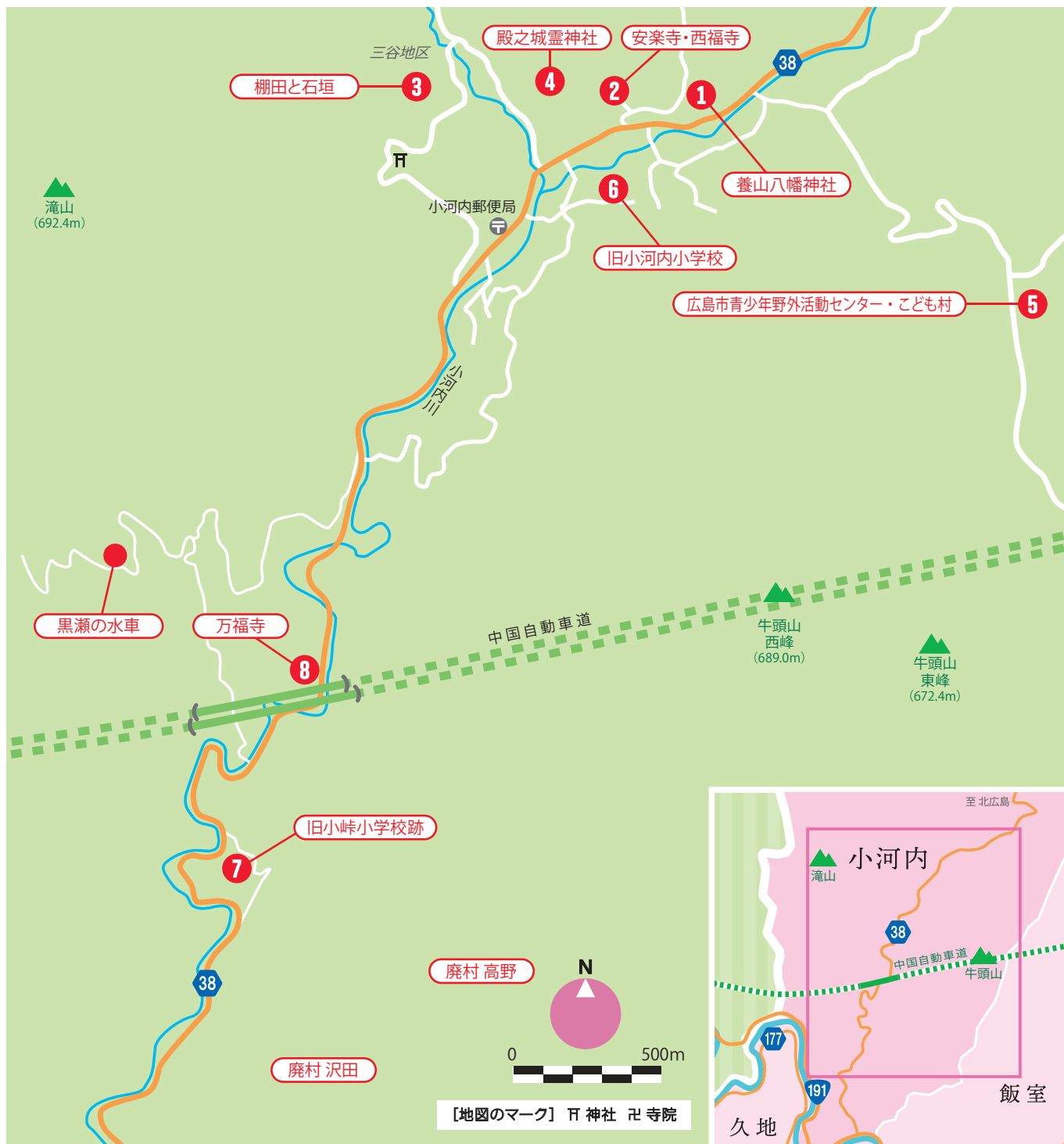
地名の由来は、この地に小河内氏が  
がいたことから「小河内」と名付け  
られたという説(その昔、豪族とい  
われる者のほとんどが居住地の地名  
と密接な関わり合いを持っていたか  
ら)の他、和名抄(平安時代の書物)  
には安芸郡河内郷をこの地に比定す  
る説があり、地形的にみて小さな河  
内郷とし、「小河内」となったとい  
う説もあります。

広島市の北西部に位置し、牛頭山  
(689・0m)と滝山(692・4m)  
に囲まれ、太田川と小河内川が流れ  
る農村の原風景が今も残っていま  
す。

牛頭山の南側に今は廃村となった  
高野地区と沢田地区。ここから小河  
内は開けて行ったと地区の古老の言  
い伝えがあります。

### 小河内弥太郎

戦国時代に現代の我々が当時を偲  
ぶことができる史跡等が作られまし  
た。安楽寺、養山八幡神社。そして、  
小河内のシンボルである小河内弥太



郎と関わりのあった牛頭城、殿之城、西福寺。小河内弥太郎は小河内氏13代目の城主（居城は牛頭城）とされています。しかし、牛頭城には銀山城（安芸武田氏）の兄を思い居城せず、殿之城を築城する。その後、毛利側吉木（現北広島町）の笠間氏の謀計により殿之城に火をかけられ、当時18歳の弥太郎は西福寺で家老の説得により自刃。二人の家臣もそれに続いた。亡骸を葬った場所に今も殿之城霊神社が建っています。

昭和になり、昭和40年代半ばには安佐町でいち早く過疎化が進み廃村（高野地区、沢田地区）が出ました。旧小河内小学校の児童数は最も多い昭和20（1945）年に約350人でしたが、廃校となった平成27（2015）年には15人でした。

こうした背景があつてか、地域住民の方々の深い郷土愛と強い絆により地域の貴重な伝統芸能（吹き囃子）や文化財、そして生活環境などを大切に保存しています。そして、次世代に受け継がれるようNPO法人O（オー）プロジェクトを立ち上げ、小河内の行事、都市部との交流イベント、郷土料理や炭づくりなどの講習会を行っています。



鎮守の杜は市の天然記念物  
200年以上続く伝統行事が有名

**1** ようざんはちまんじんじや  
養山八幡神社

天文17(1548)年に小河内村高野地区の古八幡神社の御神体を遷座し建てられた。天正年間(1573~1591)に全焼したが、天正17(1589)年に再建。秋季大祭で行われる「吹き囃子行事」は200年以上続く伝統行事。「吹き囃子行事」平成9(1997)年「広島市重要無形文化財」に指定  
「社叢」昭和53(1978)年「広島市指定天然記念物」に指定

吹き囃子行事 (右下写真)

文化9(1811)年9月27日、小河内村の氏子中にて広島市塩屋町(現広島市中区大手町)の大工新右衛門という人物から銀1貫250匁で三つの神輿を買い求めた。この神輿を氏子中では小浜地区まで出迎えたことが始まり。



当時の苦心がうかがえる  
今も残る農村の原風景

**3** ただといしがき  
棚田と石垣

山間部での農耕地確保のために、石垣を積んで開墾された棚田。その高い石垣は、草を取りやすくするように「足場」を石で築いています。石垣職人の技と農村文化が残る風景です。

宗派の異なる二寺が隣接  
小河内弥太郎終焉の地

**2** あんらくじ・さいぶくじ  
安楽寺・西福寺

安楽寺は上三根地区に天文元(1532)年、僧順教によって開基した真言宗の寺院。その後(時代不詳)現在地に移転し、寛永7(1630)年に浄土真宗に改宗された。西福寺(禅宗)は安楽寺向かって左側、明治時代の半ばに小堂として建てられた。本尊は正観音座像、脇立に持国天と多聞天。小河内弥太郎が悲運の最期を遂げた寺。



西福寺



安楽寺



牛頭山

標高689.0m。東峰と西峰があり、西峰に牛頭城跡がある。眺望は、この地と関係のある武田山(安佐南区祇園)を望むことができる。晴天時には、はるか宮島まで見えることがある。



史跡を見て、地区の原風景の一つである棚田を見て歩きます。

登山コース紹介

小河内のシンボル、小河内弥太郎にちなむ

# 小河内 おがうち



キャンプ、農場、牧場、星空観察等  
自然を活かした体験活動が充実

## 5 ひろしませいしやうねんやがいかつどうせんたー・こどもむら 広島市青少年野外活動センター・こども村

標高400mの林間に77haの敷地が広がり、多目的広場や研修・宿泊棟、キャンプ場、体育館、工作館、実習農場、牧場などの施設があります。オリエンテーリング、星空観察、農業体験など自然を活かした活動が可能です。



小河内弥太郎を供養する墓碑



語り継がれる地元史の雄  
小河内弥太郎鎮魂の社

## 4 とのんじやうれいじんじや 殿之城霊神社

小河内の歴史の中心人物である小河内弥太郎を祀る鎮魂の神社。境内には斬首した首を祀った首塚と供養のために家臣が植えたといわれる大きな松の跡と墓がある。ここより約300m登った所に、弥太郎の居城である藤之城跡もある。



移転を繰り返し  
昭和になり現地へ

## 8 まんぶくじ 万福寺

その昔、備後の国の池原壽右衛門が矢ヶ谷地区に出家して前寺を龍華院と称した。門徒の協力で明治33(1900)年、広島市猫屋町明教寺下黄檗山万福寺の寺号を買い受け辻堂中地区に移転。昭和7(1932)年改修し現在地に移転した。

かつての学び舎  
棚田の中の小学校

## 6 きゅうおがうちしょうがっこう 旧小河内小学校

## 7 きゅうこうげしょうがっこうあと 旧小峠小学校跡

旧小河内小学校は明治7(1874)年、堂原河内地区に、旧小峠小学校は明治8(1875)年、小峠地区に開かれた。明治20年代に小学校の体裁を整え、明治27(1894)年に旧小河内小が、旧小峠小は同28(1895)年に校舎を建設。昭和46(1971)年に旧小峠小学校は旧小河内小学校に統合。平成27(2015)年に旧小河内小学校も閉校となった。



旧小河内小学校の校舎



旧小峠小学校跡の石碑

昭和46年当時の沢田



### 廃村 沢田

太田川から牛頭山系に連なる標高300mの山の中腹に、南東から南西に向かってなだらかに広がる丘陵にあった。丘陵の前面に小さな山が2つ並び静かな隠れ里と言った感じである。平家の落人伝説があり、それを裏付けるように平家の守護神たる祠が残る。



### 滝山

標高692.4m。小河内で最も高い山。明見谷や楓原方面から眺める姿は「小河内富士」と呼ばれるほど富士山に似て、とても美しい。登山途中の標高500m付近の鉄塔辺りから安芸大田町、北広島町の山並みが望める。



### 黒瀬の水車

平成23(2011)年頃に作られたものである。敷地内にある蔵には多種の仏像が展示され、施主がいれば見学することができる。